

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2994900047		
法人名	社会福祉法人 室生会		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	奈良県宇陀市室生大野1685-2		
自己評価作成日	令和4年8月11日	評価結果市町村受理日	令和4年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和4年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴…3日に1回、個浴でゆったりと入浴されている。</li> <li>・食事…対面キッチンで家庭的で、入居者様が調理の様子を見ることができる。また入居者様も自由にキッチンに入ることができ、スタッフと一緒に洗い物や片付けなどをされている。食事担当者を2名配置し、毎日1名が担当している。</li> <li>・レクリエーション…入居者様の能力に応じ、認知症進行予防を考えて実施している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣には石仏・枝垂れ桜で有名な大野寺があります。宇陀川が流れ自然豊かな場所にあります。また、最寄駅から徒歩数分にあり交通アクセスが良くご家族などの来訪者にも非常に利便性の高い場所にあります。ホーム内リビングは吹き抜けとなっており、広く落ち着いた空間となっています。また、リビング前には大きなテラスがあり、家庭菜園を楽しむことも出来ます。</p> <p>スタッフは来訪者に率先して挨拶をして頂くなど気持ちの良い対応をさせていただきます。コロナ禍での調査でありホーム内の見学に制限がありましたが、聞き取り調査中に、入居者の方、スタッフの笑い声などが聞こえてきて、楽しく過ごされている様子が伺えました。また、法人全体でマナー研修や委員会を立ち上げるなど、入居者のプライバシーや尊厳に配慮しながら対応をされており、個々の人権を大切にしながら取り組んでおられると感じました。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を2015年に制定したが、スタッフに浸透しておらず、共有、実践につなげていない。	ホーム独自の理念を作成し館内に掲示、朝礼会議で唱和されています。現在の理念が中々浸透していない為、誰にでも分りやすく共有出来る理念を検討中です。	理念はホーム運営で大切にしている根本的な考え方を示すものです。法人理念を念頭に、地域密着型サービスの意義もふまえながら、より良い理念が出来ることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で隣近所の方と接する機会がない。また常時大門を閉めている状態であり、気軽に立ち寄ってもらえない。	現在、コロナ禍で活動の制限がありますが、自治会に加入されており、以前は地域清掃活動にスタッフ、入居者の方が参加されています。また、近隣の理髪店の利用や、自治会行事への参加、近隣小学校、保育所との交流等、日常的な付き合いがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かせたいと考え、方法を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議を行っていない。以前は2か月に1回開催し、頂いた意見をサービス内容に生かしていた。	現在、会議は休止中ですが、会議開催時にはご家族代表、自治会長、民生委員、市担当職員、地域包括支援センターの参加があり、活動報告や状況等について話し合いをされています。	議事録でも発言内容を細かく記載し意見を参考に検討されている姿勢が伺えました。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当課へ近況報告や介護保険関係の申請等で訪問するなど関係性を築いています。また、行政機関等からの入居相談等にも積極的に対応をされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しているが、やむを得ず、玄関の自動扉のみ施錠している。	管理者が認知症ケア学会に加入されています。身体拘束や虐待に関して定期的に勉強会を開催しスタッフに周知し身体拘束を行わないケアを実践されています。玄関の施錠は近隣が観光名所でもあり大型バスの往来もある為安全確保の為施錠していますが、入居者の方の行動を察知し一緒に屋外へ出かけるなどの対応をされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は言葉遣いの乱れから始まる事があるため、スタッフ全員が法人内のマナー研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種認知症の研修を学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法の改定やサービス料金の変更についての説明を行い、文書と捺印によって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン交付時や面会、またはLINEにて意見や要望を伺い、検討し、運営に反映させている。	ケアプラン作成時や近況報告、受診時、SNSの活用などで、ご家族の意向を確認しながら対応等を検討し取り組んでおられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前にスタッフに聞き取りを行い、月に約2回、ミーティングを開催している。	月2回ミーティングを開催しています。参加出来ないスタッフには記録を回覧し確認する仕組みがあります。ミーティングでは、個別のケア内容の検討や業務的な検討をし、ケアや運営に反映されています。また、管理者とスタッフの個別面談をする機会もあり意見交換をされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で制限はあるが、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困っている事や不安な事、要望などに耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族などが困っている事や不安な事、要望などに耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族などが、その時にまず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍で外泊や面会に制限がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会に制限がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会に制限がある。	コロナ禍で面会や外出に制限があります。コロナ禍前は、知人の面会やご家族の協力の元、自宅への外出、外泊や馴染みの店でのショッピングなど、関係継続の支援が行われていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる方は、各自ご自身の居室の掃除をされるが、困難な方に代わってお手伝いをする姿などが見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したらフォローや相談を受ける事や支援をする機会がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、会話や表情などから思いや意向を把握している。	ご家族からの情報や、入居者の方との日頃の会話や表情から読み取るなど意識されています。また、日常生活の場面でも食べたい物や衣服の選択など希望等を引き出すことを意識しながら取り組んでおられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に担当のケアマネージャーや家族様より情報を収集し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護内容などを日報に、また申し送り事項などはノートに記録し、閲覧するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の意向を伺いケアプランを作成している。	基本的に6カ月に1回、ケアプランの見直しを行っています。プラン作成時にはご家族の意向の確認をしておられます。また、月2回のミーティングで状況確認をし、プランと状況が大きく乖離している時は随時変更をされています。	課題に対しての対応方法について、スタッフやご家族が分かりやすい様に手順が記載されていました。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居後と退院後の1週間は、24時間シートを用いて詳細な情報を記録し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや買い物支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の利用は継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則家族対応であるが、依頼があればスタッフが受診対応し、結果を家族様に報告している。また歯科受診と皮膚科受診は軽度であれば、往診対応を依頼している。	基本的にご家族の付き添いでの受診となっています。諸事情によりご家族の付き添いが出来ない場合はスタッフの対応も可能です。また、必要であれば内科、歯科、皮膚科の協力医療機関の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在のため、直接かかりつけ医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師や地域連携室と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人や家族様と医療機関と対応について話し合いながら方針を決定している。	重度化となった場合、ご家族や関係者と出来る事出来ない事を説明し、対応を話し合いをしながら取り組んでおられます。対応出来る限りはご本人、ご家族の意向に添える様に配慮されています。	同一法人の特養入所等の選択肢もあり終末期ケアのフォローがあります。看取りをされた経験はありませんが、住み慣れた場所で最期まで過ごす事も選択肢として検討をされては如何でしょうか？一度に出来ることではありません。また、実現が難しいかもしれませんが、法人のノウハウを活用しご検討頂くだけでも意義があるかもしれません。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、上位者に報告し指示を仰いでいる。(オンコールも含む。)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時を想定した避難訓練などを年に2回実施している。	年に2回避難訓練を実施されています。消防署の立会で訓練をしたり、水害時にホーム2階へ上がる、地域の避難場所への移動訓練など、工夫しながら、有事に備えて取り組んでおられます。運営推進会議でも有事の際の地域住民の協力依頼をするなどし協力依頼をしておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながら、プライバシーや個人情報保護について取り扱いと管理を行っている。	法人全体で外部講師によるマナー研修を実施し、スタッフへの教育体制があります。言葉遣いや個人ファイル等の管理などに配慮しながら取り組んでおられます。	法人全体で委員会を立ち上げ、委員会によるマナー・プライバシーに関する冊子を作成しスタッフに配布。言葉遣いや対応について分りやすくまとめられており関心しました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら意思表示をする事が困難な方については、質問をして表情などから意向を把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなタイムテーブルはあるが、その中で一人ひとりの希望に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやパーマなど希望に沿うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや行事食のお手伝いをして頂いている。また昼食時はスタッフ1名が入居者様と同じテーブルで同じ食事を食している。	基本的には献立・食材は外部委託となっておりますが、行事食やおやつ作りを企画する時は発注を止め、入居者の方と一緒に作る時もあります。また、現在はコロナ禍で行けないですが、近隣のお店に外食する事もあり、食べる楽しみが出来る様に工夫しながら対応をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録して把握している。またお茶を好まれない時などは、アクエリアスなどの代用品を飲用して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きや義歯洗浄を行っている。また義歯については、夜間は洗浄液に漬け、保清に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健やかチェックシートを活用して、それぞれの排泄パターンを把握しながら、個別に対応している。	排せつチェック表を用いて個々の排せつパターンを把握。また、仕草等を察知しさりげなくトイレへご案内するなど工夫をされています。また、出来る限りトイレでの排せつが継続出来る様に努めておられます。	独自の排泄チェック表を作成し排せつパターンが一目でわかる様に工夫されていることに関心しました。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には牛乳を飲用して頂いている。また排便コントロールについては、かかりつけ医と相談し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回、一人ひとりゆったりと入浴して頂いている。	脱衣・入浴までお一人ずつご案内し、プライバシーに配慮しながら、ゆったりと入浴が出来る様に心がけています。また、季節に合わせてゆず湯など楽しむことも出来ます。設備的にはリフト浴も完備し立位、浴槽またぎが難しい方も入浴が出来ます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の明るさや足音などにも留意している。またエアコンも一人ひとりの好みや状態に合わせて温度設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と提携し、院外処方により薬剤師が管理一包化している。目的や副作用、用法や用量については、かかりつけ医から説明を受け、理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃より何に興味や関心を示されるかを観察している。また毎日、担当スタッフがレクリエーションの内容を考えて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で制限はあるが、支援している。	近隣のお寺や駅までの散歩など屋外へ出かけておられます。コロナ禍で制限があり現在は中止していますが、ドライブや花火大会、外出に出かけたり、法人施設の音楽リハビリに参加するなど、外出機会を設けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族様にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に通話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは適度な装飾で、混乱なく落ち着いて過ごせるように配慮している。	リビングは吹き抜けとなっており広々としています。シックな茶色の木目調の空間で落ち着いた雰囲気があります。また、南向きに大きな窓があり自然光が入ります。南向きの窓を出ると大きなテラスがあり家庭菜園を楽しむことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が過ごしやすいように自席以外にもソファを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとクローゼットが備え付けられているが、それ以外は個々に慣れ親しまれた日用品や大切にされている物などを持って来て頂いている。	ベッドとクローゼットは備え付けとなっています。趣味の道具や使い慣れたタンスなどの持込みや、壁に家族の写真や創作作品を掲示するなど、居心地よく過ごせる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所など分かりやすく表示している。また居室のネームプレートも個々に合わせてわかりやすく工夫している。		